

オンラインによる徳島大学全学説明会の展開と今後の展望

植野美彦, 上岡麻衣子
(徳島大学高等教育研究センター)

1. はじめに

2020年1月6日に海外で原因不明の肺炎が発生、その10日後の1月16日に日本国内で初めて新型コロナウイルスへの感染が確認された。「コロナ禍」の襲来である。このことは社会活動に甚大な影響を及ぼした。大学入試への影響も大きく、国立大学では個別学力検査等の「追試験」の設定などの措置があったことは記憶にあるだろう。学生募集活動においても対面によるオープンキャンパスや進学相談会が中止となり、オンライン化へのシフトが顕著となる。徳島大学では、Zoomを活用した進学相談会(説明会)を2020年度より企画・実施することになり、「全学説明会」としてオンラインによる学生募集活動を行う契機にもなった。本報告では、オンラインイベントの実施状況や参加者に行ったアンケート結果等を基に、その成果および課題、今後の展開について考察する。

2. 全学説明会の展開と結果

コロナ禍により、対面による進学相談会が概ね開催中止となったことを受け、徳島大学はオンラインイベントを企画・実施してきた。その開催状況を下記に示す。

(1) 2020年度の開催状況

2020年6月19日から10月2日(毎週水曜日から金曜日)まで「進学相談窓口」として、Zoom相談と電話相談の2つ(相談者の選択)の対応を取った。さらに、徳島県との協働による「徳島県と徳島大学の合同進学セミナー in Zoom」を9月から1月まで毎月1回開催した。本セミナーは、コロナ禍前、大阪市の徳島県関西本部で対面による開催であった(上岡ほか, 2021)。内容は大学説明と徳島の紹介、事前質問対応の3部構成である。

「進学相談窓口」は個別相談形式のため、相談担当者の時間的拘束が長く、申込があっても無断欠席する受験生が多いなどの問題が顕在化した。また、表1で示す通り、回数を増やしても申込者が想定より増えず、運用コスト面から見ても非効率なため、当年度で開催を中止した。

「徳島県と徳島大学の合同進学セミナー in Zoom」は対面とは異なり、スマホ等で自宅から気軽に参加できるため、参加者の居住地が全国規模となった。よって、関西地区のみならず遠方からの参加が可能となるなど入学志願者を確保する上でオンライン形式は大変有効な手段となる(上岡ほか, 2020)。また、オンライン形式の方が、1回あたりの参加人数が増加したことや経費削減の面を考慮し、この形式を継続することになった。

表1 本学主催オンラインイベント申込状況 ※1)

年度	計画回数	実施回数	申込者数
2020 ※2)	47	35	140
2021	9	9	160
2022 ※3)	9	9	754
2023	9	9	506
2024 ※4)	12	7	663

※1) 本データは延べ申込者数である。再申込者を含む。

※2) 2020年度は個別相談と説明会の2形式で対応
進学相談窓口 計画回数42 実施回数30 申込者数2
合同進学セミナー計画回数5 実施回数5 申込者数98

※3) 2022年度はハイブリッド開催(表の値はオンライン申込者)
対面 計画回数3 実施回数3 申込者数138
オンライン 計画回数9 実施回数9 申込者数754

※4) 2024年度の値は、11/6現在のもの。今後5回の開催。

(2) 2021年度の開催状況

「徳島県と徳島大学の合同進学セミナー in Zoom」を前年に引き続いて6月から1月まで毎月1回を基本に実施した(8月のみ2回)。申込者数も表1の通り前年を上回る結果となった。

(3) 2022年度の開催状況

2022年度より本イベント名を馴染みやすい「徳島大学全学説明会」に改称し、展開することになった。6月から1月まで毎月1回を基本とし（8月は未開催、1月に3回）、6月、7月、9月は対面とオンラインによる併用開催、いわゆるハイブリッドによる開催を試行的に実施した。2022年度はコロナ禍の落ち着いたため、対面によるオープンキャンパスを復活させた年であった。そのためか、対面開催を望んだ受験生が多く、早期からオープンキャンパスの申込締切が相次いだ。このことも影響し、7月の申込は対面とオンラインで425名となり、この年度の申込者数は急激に上昇した。また、当年から告知用のチラシを作成し、徳島大学と接触歴のある全国の高等学校へのチラシの送付を行ったこと、そして受験生サイトの改修などの広報強化に務めたことが表1に示す成果に繋がった。なお、対面開催については多くの人数の受入が難しい事情とハイブリッド開催のために必要なスタッフを毎回準備することが難しく、当年で終了させた。

(4) 2023年度の開催状況

2023年度はオンラインのみの開催で、6月から1月まで毎月1回を基本として実施した（1月は3回）。当年度もチラシを作成し、動員を強化したが、申込は表1の通り、前年を下回ることになる。次年度からの改善策として回数増とコンテンツの充実を図ることにした。

(5) 2024年度の開催状況

当年は4月から1月まで毎月1回を基本として実施し（1月は3回）、全学説明会に「特別ガイダンス」の企画を加えた。「特別ガイダンス」は特定学部に焦点をあてた紹介、リケジョ、海外留学、入試情報に特化したガイダンスなどである。現段階としては、2022年度の申込者ベースに追いつく勢いであり、改善の成果が表れている。

3. 今後の展望

過去5年の申込状況をみれば順調に増加傾向

にあると言える。申込増＝志願者増というロジックに繋がるかどうかは今後検証が必要である。ここでは、この5年間の蓄積を振り返り、今後の展望について論じておきたい。全学説明会の参加者アンケート¹⁾から、説明会の内容を充実させているためか高い満足度が得られていること、そして本説明会の認知経路が大学ホームページが圧倒的に高いことがわかっている。後者は評価できる反面、徳島大学との接触頻度の低い受験生の参加が少ない可能性を示唆しているとも言える（ロコミ参加が少ない）。大学ホームページからの認知経路の場合、従来から徳島大学に関心をもつ受験生が多く、本学の受験も視野に入れている層となる。永野ほか（2022）が行った国立大学へのオンライン相談会に関する調査によれば、その欠点として、「（対面と比べ）もともと興味のある参加者に限定された」ことを挙げている。本学に高い関心を寄せる参加者に丁寧な対応することは論を俟たないが、潜在的な志願者層の発掘に当説明会を通して行う戦略も今後検討する必要がある。上岡（2022）が行った本学入学者アンケートによれば、各学部とも概ね受験した理由として「国立大学だから」という項目を最上位に挙げている。その示唆をヒントと捉え、全学説明会のさらなる充実と改善を進め、アドミッション・ポリシーに合致した入学希望者の発掘に向けて活動を展開したいと考えている。

注

1) 当該アンケート結果については口頭発表時に詳細を報告。

参考文献

- (1) 上岡麻衣子, 植野美彦, 関陽介(2020). 「徳島県と徳島大学の合同進学セミナー in Zoomの実施と今後の展望—対面開催との比較を通して—」『第17回 大学教育カンファレンス in 徳島 発表抄録集』18-19.
- (2) 上岡麻衣子, 植野美彦, 関陽介, 川野卓二(2021). 「地方国立大学の入試広報の取組—徳島県と徳島大学の合同進学セミナーの実施—」『大学入試研究ジャーナル』31, 293-298.
- (3) 上岡麻衣子(2022). 「令和4年度大学広報活動等のアンケート結果報告」『徳島大学 令和4年度入試結果報告会 資料』
- (4) 永野拓矢, 橘春菜, 寺島裕登, 石井秀宗(2022). 「オンライン相談会に関する今後の展望と課題—国立大学へのアンケート結果から—」『大学入試研究ジャーナル』32, 212-219.